

「情報と向き合う生徒」

～メディアリテラシーの構築を目指して～

指定校 2 年次 箕輪町立箕輪中学校
宮尾 涼子 五味 和高 小澤 未来 岩原 学

I 本校の新聞活用（NIE）の取り組み

1 指定校 1 年次

「生徒が新聞や社会情勢に興味を持てる環境作り」と「授業での新聞の積極的な活用」を中心に新聞活用に取り組んだ。社会科の中で現実社会と結びつけやすい公民の分野において授業で新聞の活用をしたり、新聞をより近くに感じられる環境づくりを行ったりした。

2 指定校 2 年次

1 年次での実践と課題を受けて、新聞活用をより深めていき、この 2 年間で得られたことを学校教育活動の中で継続していけるものになるように取り組んできた。

①新聞や社会情勢に興味を持てる環境作り

- 生徒と教師がともに新聞が読める環境をつくるために、職員室の大机に置いていた新聞を、新聞設置台を製作し、生徒玄関前に設置した。
- 日報の裏面に新聞記事を載せるなど、昨年度の活動に加えて、NIE の係や若い先生を中心に、切り抜いた新聞記事を掲示し、生徒の新聞への興味・関心を高める活動を行った。



②社会科の授業で新聞を使う学習効果

「国の政治のしくみ ～行政改革～」(3 年生) から

現代の日本社会では、人々の生活の安定のため社会保障や教育、雇用の確保など様々な仕事を行うべきである、という「大きな政府」の考え方がとられている。ここが広がりすぎることによって、行政の担う役割や負担が大きくなってしまいうという側面から、現在では行政改革のうごきが進められている。

政府の仕事が増えると非効率的になることがあること、その緩和のために行政改革があるというこ

とに気付かせるため、新聞記事を活用した。

＜授業の展開と実際＞

「マイナンバー制度実施の記事」(2015.9.28)

2015年10月以降
マイナンバー制度が本格実施される。マイナンバーは、住民票を有する全ての人（外国人も）に1桁12桁の数字で割り当てられる。マイナンバーは、住民票を有する全ての人（外国人も）に1桁12桁の数字で割り当てられる。

マイナンバー制度のポイント

- ①マイナンバーは、住民票を有する全ての人（外国人も）に1桁12桁の数字で割り当てられる。
- ②マイナンバーは、住民票を有する全ての人（外国人も）に1桁12桁の数字で割り当てられる。
- ③マイナンバーは、住民票を有する全ての人（外国人も）に1桁12桁の数字で割り当てられる。

マイナンバー制度のメリット

- ①マイナンバーは、住民票を有する全ての人（外国人も）に1桁12桁の数字で割り当てられる。
- ②マイナンバーは、住民票を有する全ての人（外国人も）に1桁12桁の数字で割り当てられる。
- ③マイナンバーは、住民票を有する全ての人（外国人も）に1桁12桁の数字で割り当てられる。

マイナンバー制度のデメリット

- ①マイナンバーは、住民票を有する全ての人（外国人も）に1桁12桁の数字で割り当てられる。
- ②マイナンバーは、住民票を有する全ての人（外国人も）に1桁12桁の数字で割り当てられる。
- ③マイナンバーは、住民票を有する全ての人（外国人も）に1桁12桁の数字で割り当てられる。

10月から全世帯へ郵送

マイナンバー制度は、住民票を有する全ての人（外国人も）に1桁12桁の数字で割り当てられる。マイナンバーは、住民票を有する全ての人（外国人も）に1桁12桁の数字で割り当てられる。

マイナンバー制度のメリット

- ①マイナンバーは、住民票を有する全ての人（外国人も）に1桁12桁の数字で割り当てられる。
- ②マイナンバーは、住民票を有する全ての人（外国人も）に1桁12桁の数字で割り当てられる。
- ③マイナンバーは、住民票を有する全ての人（外国人も）に1桁12桁の数字で割り当てられる。

マイナンバー制度のデメリット

- ①マイナンバーは、住民票を有する全ての人（外国人も）に1桁12桁の数字で割り当てられる。
- ②マイナンバーは、住民票を有する全ての人（外国人も）に1桁12桁の数字で割り当てられる。
- ③マイナンバーは、住民票を有する全ての人（外国人も）に1桁12桁の数字で割り当てられる。

個人番号の通知迫る

マイナンバー

マイナンバー制度は、住民票を有する全ての人（外国人も）に1桁12桁の数字で割り当てられる。マイナンバーは、住民票を有する全ての人（外国人も）に1桁12桁の数字で割り当てられる。

マイナンバー制度のメリット

- ①マイナンバーは、住民票を有する全ての人（外国人も）に1桁12桁の数字で割り当てられる。
- ②マイナンバーは、住民票を有する全ての人（外国人も）に1桁12桁の数字で割り当てられる。
- ③マイナンバーは、住民票を有する全ての人（外国人も）に1桁12桁の数字で割り当てられる。

マイナンバー制度のデメリット

- ①マイナンバーは、住民票を有する全ての人（外国人も）に1桁12桁の数字で割り当てられる。
- ②マイナンバーは、住民票を有する全ての人（外国人も）に1桁12桁の数字で割り当てられる。
- ③マイナンバーは、住民票を有する全ての人（外国人も）に1桁12桁の数字で割り当てられる。

「なぜデメリットもあるのに政府はマイナンバー制度を実施したのだろうか？」

～生徒の反応～

S: このナンバー一つで銀行口座もわかってしまうの!? やばい!

S2: なんでだろう? 政府の仕事を減らしたいからじゃないか。

S3: これまで行政が管理していた情報がナンバーになれば政府は楽だ。

S4: 内閣が楽になりたいから。

公民の最初に、「現在のニュースから3分間スピーチをつくろう」という学習を設定し、好きな記事やニュースをもとに、①そのニュースの内容を概要説明し、②2つ以上の視点を述べ、③自分の立場を明らかにして意見を書くという活動を行った。その原稿をもとに、授業の前に毎時間、生徒が一人ずつ3分間スピーチを行っている。その中の何人かが注目した記事が、この「個人番号の通知迫る マイナンバー」であった。予め記事の内容をある程度読み込んだ子がスピーチをし、そこからその記事を配布して全員でこの問題について考えることで内容理解が速く、より深まることとなった。

また、この記事の内容を読み込んでいくことで企業の事務負担が大きいことや個人情報の流出、国民の不安の声などといったマイナス面もあることに気づき、自然と「デメリットもあるのになぜ政府はこの制度を行うのか」という学習問題が成立した。記事の中には「政府は、税制や社会保障関連などの幅広い個人情報を番号で結びつけ、行政事務の効率化や徴税強化につなげる狙い。」という記述もあり、そこから生徒たちは「行政が事務を効率化するのがねらいである」ことに気づいて、現在の行政の課題やその解決策に対して考えを深めることができた。

II 育てたい力

- ・社会事象を的確にとらえ、一つの事象にも様々な見方があることを知った上で自分の考えに根拠をもって語ることができる。
- ・今周りで起きている社会事象をとらえ、その中で生きているという自覚をもつとともに、そこから学ぶことができる。

Ⅲ 研究の概要

1 授業実践 《3年社会科》

(1) 単元名 「裁判の種類と人権」

(2) 単元の目標

- ・新聞記事から事件の内容や記事内容を積極的に読み取ろうとする（関心・意欲）
- ・記事からわかる裁判の種類やしきみを理解することができる（知識・理解）
- ・記事からの確に情報を読み取ることができる（資料活用）
- ・記事から読み取った情報を下に自分の考えを展開することができる（思考・判断）

(3) 単元展開の構想と本時の位置（前3時間）

①「大阪・愛知・岐阜連続リンチ殺害事件」から裁判の流れをつかもう

…新聞記事をもとにして、一つの事件を発生から判決まで追い、裁判の流れを理解する。

②死刑について考えよう

…①の事件は凄惨な死刑事件である。死刑の是非を考えた後で「死刑弁護の手引き」についての記事を読むことで次時の学習につなげる。

③なぜ「死刑弁護の手引き」では被害者の裁判参加に反対しているのだろうか？（授業実践）

…「死刑弁護の手引き 波紋」の記事から、被害者の裁判参加への反対について議論することで、被告人の人権と裁判の公平さ、裁判官の大変さなどを感じることができる。

(4) 本時案

①主眼

裁判のしくみや流れを学習した生徒たちが、死刑事件の弁護士手引きについての記事を読み、生徒が着目している被害者の裁判参加への反対理由を考えることを通して被害者遺族が証人として出ることの意義とともに死刑事件にも弁護士をつけること、黙秘権が認められていることなどを読み取り、加害者にも裁判は平等に人権を保障していることに気づくことができる。

②展開

段階	時間	○生徒の学習活動・予想される生徒の反応 発問	指導・支援【評価】	資料
導入	10	○本時で扱う「死刑弁護の手引き 波紋」について改めて内容を確認する。 記事の内容を確認しよう ・弁護士内で作られた手引きだ ・目標は死刑回避なんだな ・被害者の裁判参加に反対しているんだ	【前時の記事の内容を理解している】 ・前時にしっかり読みこめていない生徒が多いため、読み取れている生徒の意見をもとに板書で整理する ・机上には学習プリントと筆記用具、根拠となる資料の記事のみにする。	・学習カード（前時） ・資料プリント（前時）
展開②	5	○前時に書いたこの記事の感想を発表する 記事の感想を発表しよう ・この手引きは正しい。反省しているなら罪を軽くするのが弁護士の仕事。 ・遺族は被告人に言いたいことがたくさん。その権利を奪うのはひどい！	・この記事への賛成意見、反対意見をいくつか出し、裁判参加制限への反対意見を取り上げる。 ・被害者の裁判参加反対は、起訴事実を被告が否認している事件で勧められていることを確認する。	

		<ul style="list-style-type: none"> ・被害者も事件にかかわった人物なので裁判に参加してもおかしくないのでは。 		
展開②	10	<div style="border: 2px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> なぜこの手引きでは被害者の裁判参加に反対するのだろうか？ </div>		
	10	<ul style="list-style-type: none"> ○予想をたて、共有する ・法廷が感情に支配されないためだと思う。記事にもそう書いてあるし。 ・感情に左右されてその被告人が犯人だと決めつけられたらもし間違っていたときに大変だ。 ・弁護士は自分の弁護する被告人を有利にしたいからだ（※） 	<ul style="list-style-type: none"> ・予想で時間をたくさん取らないよう、机間巡視をして生徒の予想を把握する。 <p>【既習事項を使いながら自分なりの考えを書けているか】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・（※）の意見が出たらリンチ事件のような事件の弁護士の気持ちについて考えられるような問い返しをする 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習カード
		<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> 裁判で大切にしていることは何なのか、資料をもとに考えよう。 </div>		
	10	<ul style="list-style-type: none"> ○自分の予想をもとに資料からわかったことをまとめる。 ・弁護士をお願いするお金や、つてのない人のために「国選弁護士」というものがあるんだ。 ・死刑事件を担当するのは大変だな。 ・そこまでしてなんで弁護士をつけるのだろう？ ・冤罪事件というものもあるんだ、これは死刑になったら大変。 ・でも、被害者参加することで被告の本当の反省を促せるのではないかな。大切なのはそこだとも思う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・たくさんの資料をいっぺんに見るのではなく、自分の予想に一番近い資料からわかったことを挙げるようにさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・危険ドラッグ運転記事（信濃毎日新聞 2015.11.19/11.21）
展開②	10	<ul style="list-style-type: none"> ○資料からわかったことを共有し、学習課題の解決につなげる <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> 意見を共有して、学習問題についてわかったことを書こう。 </div> <ul style="list-style-type: none"> ・死刑事件の弁護士は大変だけど、それでも必ず弁護士がつかなくてはいけないんだ。被告は大切にされているんだ ・もしその事件の被告が冤罪だったら、やはり取り返しがつかない。死刑に反対している弁護士がいるし、やっぱり被告が本当にやっているのだとしても心から反省することが一番大事だと思う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・わかったことと同時に、その資料から考えることを記述するようにする。 <p>【資料から必要なものを見出し、情報を整理することができる】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・資料がうまく選択できない生徒には助言をしながら進める。 	

<p>終末</p>	<p>5</p>	<p>○今日の授業で学んだことや感想を書く。</p> <div data-bbox="277 250 740 383"> <p>今日の授業の感想や学んだことを書きましょう。</p> </div> <p>・死刑になるような犯人にわざわざ何回も裁判をする必要はないと思ってたけど、加害者にも平等に人権が保障されていることがわかった。</p>	<p>・裁判はあくまでも公平に行われるものであること、人権保障のことも考えて行われるべきであることを理解し、裁判員制度の学習につなげる。</p>
-----------	----------	--	--

実際に使用した新聞記事・資料記事について



<読売新聞 2015. 10. 19>

中心資料



<信濃毎日新聞 2015. 11. 19/2015. 11. 21>



これら2つの記事については、学習課題解決のために自分の予想に応じて資料を読み取れるよう、被害者の裁判参加の例を提示するための資料である。

本時の中心資料の要点

- ①否認事件における被害者の裁判参加（最近認められた権利。被害者遺族などが裁判に参加し、証言などをできる）に反対
- ②取り調べでの原則黙秘

目標は死刑回避

2 考察

(1) 新聞記事に書かれている情報から自分の視点で考えを深めていく生徒

(前時に「死刑弁護の手引き 波紋」を読んで感想を書いたK生)

「被害者の思いからすると被告がしゃべったことを知りたいと思うのは当然だし、それを否定するのはやっぱりおかしいと思う。死刑弁護だから、とてもいけないことをしたということはわかっているんだから、被害者の気持ちを考えろ！あと、弁護士も自分たちの立場が悪くなるからってそんなことするな～～！」

被害者の裁判参加反対への疑問…



(本時、被害者の裁判参加への反対を仲間と論じる中で被告の人権を守る視点に目を向けたK生)

「物的証拠じゃないにしろ、そこにいた人の意見というのは、それに近いぐらいの証拠になってしまうから、被告側からしてみれば嘘を言っているかもしれない。そう考えるとそれを排除したいのは当たり前だから（被害者の裁判参加への反対は）あっていいと思う。」

被害者の裁判参加反対への肯定

(2) 考察

資料の多さや難しさが心配ではあったが、生徒が新聞記事の読み取りを思ったよりの確に行うことができていた。情報から自分で考え、自分の言葉で語ったり書けたりする生徒が多くいたことがよかった。そこから、「裁判は様々な立場を考えて行わなければならない、大変だ」、「どちらの人権（被害者・加害者）も大切に考えていくべき」などの感想を持つ生徒も多くおり、情報を共有したことで考えが深まったと考えられる。中心資料（記事）の内容把握と共通理解を前時までにやっておく必要があった。できれば新聞記事をじっくり読む時間を確保したい。

この裁判の学習の最後に学んでみての感想を生徒に書いてもらった。「これまで何気なく見ていた新聞やニュースを意識して見るようになった」、「ニュースで裁判のことをやっていると『それは違うでしょ～』など、自分の考えで見るようになった」などの感想が多く、授業者としても嬉しい。今周りにある社会事象を自分ごととしてとらえ、自分の感覚で考えることのできる生徒を今後も育成していきたい。